

## 校長との座談会も創立60周年特番！

### 第2回「校長との座談会」は創立60周年記念ゲストとかけて「二刀流」 —「元在校生」水野雄太氏を迎えて

(2018年12月8日)

創立60周年の2018年度も終盤に差し掛かってきました。今年度2回目の「校長との座談会」は、1990年代に小学校低学年、4年生の夏までをワシントン日本語学校で過ごされた水野雄太氏を迎えて12月の第2週目に1階カフェテリアで開催されました。



幼少年期にワシントン郊外のヴァージニア州で過ごされた水野さんにとって、ワシントン日本語学校は「日本語の基礎を学んだところ」であり、日本人としてのアイデンティティの基盤を培った場所。今回、弁護士の研修のために滞在しているニューヨークから古巣の本校にわざわざ足を運んでくださっての訪問です。

座談会に集った30人程の保護者の方々に前に日本語学校時代、その後日本に帰国してからの経験、そして、ワシントン地域滞在中に始めたアイスホッケーを通じて現在は精力的に推進中の啓蒙運動、多彩なトピックが飛び交いました。弁護士になろうと思ったきっかけや苦手な科目の勉強へのアプローチなど、淡々と語ってくださるエピソードの中に、何気ないアドバイスを見つけた保護者の方も多かったことでしょう。

アイスホッケーを通じての「二刀流」のお話では、日本でよく言われる「〇〇一筋」に疑問が投げかけられ、何か一つだけでなく色々なことをやってみるマルチスポーツの奨励など興味深いお話も伺えました。

国際的に活躍する仕事をしたい、という思いを着々と実現しながらも、日本人としてのアイデンティティを大事にしたい、というお言葉も印象的 -- どちらもワシントン地域滞在、ワシントン日本語学校での経験に基づいた心であることは疑いないようです。



座談会の後、水野さんは小学3年生、6年生、中学、高校の教室を回り、授業風景を見て歩かれ、昼食時間のカフェテリアにも立ち寄られました。水野さんと在校生徒達、お互いにちょっと不思議な先輩—後輩の束の間の交わりの時であったかもしれません。

<<水野雄太(みずのゆうた)氏 プロフィール>>

- 1993年(小1)～96年(小4)までワシントン日本語学校で学び、日本へ帰国。(現地校は Lemon Road Elementary School, Falls Church, Virginia)
- 学歴: 東海高校、東京大学法学部、慶應義塾大学 法科大学院、スタンフォード大学ロースクール
- 現在: 長島・大野・常松法律事務所 弁護士(Cravath, Swaine & Moore LLP ニューヨーク事務所で研修中)。日本アイスホッケー連盟 企画委員会 委員としてマルチスポーツ・学業両立の「二刀流」を応援するプロジェクトを遂行中。